

令和6年度（2024年度）市町村職員国内先進事例研修 研修先の概要

研修① 福岡県宗像市：ひのさと48

(1) 町の概要

人 口：96,884人

世帯数：45,075世帯 ※令和6年5月31日現在

(2) 研修テーマ 既存住棟活用によるコミュニティ拠点を核とした持続可能なまちづくり

福岡県宗像市にある「日の里団地」は、今から約50年前に完成し、最盛期には約20,000人が暮らしを共にした九州最大級の集合住宅であったが、近年は老朽化や空き家の増加という、全国共通の課題に直面していた。令和2年、住宅メーカーやインフラ会社など10社が集結した「福岡県宗像市日の里団地共同企業体」が、団地移転集約によって生まれた、日の里団地にある一部の余剰地をUR都市機構から譲受した。老朽化が進み、人が住めなくなった一部の閉鎖棟は解体したが、共同企業体に参加する西部ガスと東邦レオの2社で設立した「日の里コミュニティ特定目的会社」が既存住棟1棟を改修して、「ひのさと48」をオープンし、管理運営を手がけている。施設は既存住棟を活用した地域のコミュニティ拠点になっており、コミュニティカフェ、クラフトビール醸造所、DIY工房、シェアキッチン、認可保育所、子どもの発達支援施設などが入居している。また、クラウドファンディングで支援を呼びかけ、市内の中学生が発案したクライミングウォールの設置も行うなど、市民が主役になる持続可能な取り組みを推進している。本研修では本取組についての座学と「ひのさと48」の見学を行う。

研修② 福岡県北九州市：北九州次世代エネルギーパーク

(1) 町の概要

人 口：910,999人

世帯数：439,610世帯 ※令和6年5月1日現在

(2) 研修テーマ 「SDGs未来都市」北九州市における再生可能エネルギーを活用した取組

「北九州次世代エネルギーパーク」事業は、産業分野における様々なエネルギー供給・活用のあり方を、実際の現場をフィールドとして市民や企業に広く知ってもらい、エネルギーに対する理解の増進を図ることを目的として、平成19年10月に経済産業省の認定を受けて実施している。北九州次世代エネルギーパークでは①暮らしを支えるエネルギー供給基地②次世代を担う自然エネルギー③リサイクルから生まれるバイオマスエネルギー④エネルギーの企業間連携（地産地消）⑤エネルギー利用の革新技術—の5つの面から再生可能エネルギーを活用した取り組みを行っている。本研修では本取組についての座学と北九州次世代エネルギーパーク内にある風力発電所、太陽光発電所の見学を行う。

研修③ 大分県豊後高田市：「昭和の町」商店街

(1) 町の概要

人 口：21,783人

世帯数：11,035世帯 ※令和6年5月31日現在

(2) 研修テーマ 「地域資源を活用した商業・観光一体のまちづくり」

豊後高田市では、商店街が最も栄えていた時代を再現した、「昭和の町」を模して、地域商店街の活性化を図っている。平成13年から「昭和の町」づくりを本格的に開始し、景観づくりやおもてなしの心づくりなどのコンセプトの下、拠点施設の整備や人材の誘致などの活動を展開。平成17年に行政や商工会等が出資・設立した「豊後高田市観光まちづくり㈱」が、「昭和の町」の管理・運営主体となり、地域観光の質を維持できる仕組みの構築を計り、拠点施設の管理運営、旅行商品の企画や物販等の収益事業を行うなど、観光と商業の一体的推進による雇用の増加につなげた。また、取組を開始してから20年以上が経過した現在でも商店街活性化のモデルとして注目を集める一方で、流行は一過性で長続きしないものであるとの危機感を持ち、豊後高田の将来を見据えたまちづくりを進めている。本研修では本取組についての座学と商店街の見学を行う。